

令和4年度第1回全国健康保険協会石川支部評議会 議事要旨

日時 令和4年7月21日(木) 14時00分～15時20分
場所 WAKITA金沢ビル8階会議室
出席者 評議員(各50音順、敬称略)

【学識経験者代表】

森山 治

【事業主代表】

山田 秀一

【被保険者代表】

梶 郁代、山岸 尚子

議事

- (1) 2021(令和3)年度決算見込みについて
- (2) 令和3年度石川支部事業実施結果について
- (3) インセンティブ制度の見直し結果について(報告事項)

議事概要

- (1) 2021(令和3)年度決算見込みについて
資料1: 2021(令和3)年度決算見込みについて

【学識経験者代表】

石川支部の令和3年度収支を見る限り、来年度は保険料率が下がると期待して良いか。

【事務局】

地域差分の0.19%は令和3年度の総報酬額の実績に基づく参考値であり、来年度の保険料率は令和5年度の総報酬額の見込み額をもとに算出するため、お示した数値がストレートに反映するわけではないが、来年度は下がる方向とみている。ただ、次の年に反動で上がる可能性もあり、医療費の動向は注視していかなければならないと考えている。

【被保険者代表】

2021年度の医療給付費の伸び率が非常に高い伸びであったということであるが、前年度のマイナスと合わせて2年間でみるとどうか。

【事務局】

1人当たり医療給付費の推移をみると診療報酬のマイナス改定などにより微増で推移している。2021年度は新型コロナウイルス感染症にかかる医療費が伸び率に大きく寄与しており、前年度にマイナスとなった影響を考慮しても非常に高い伸びとなっている。

【被保険者代表】

コロナ禍前の前々年度との比較では、石川県の医療費は一番低い伸び率となっているが、これといった理由があるのか。

【事務局】

令和元年度は、石川県ではがんによる入院費が大幅に上がった年であるが、これは偶発的な要素が高いと分析している。その反動で、現在がんによる入院医療費は下降傾向となっている。また、新型コロナの影響で健診を控える人が多かったことや、医療機関側も手術等を緊急度に合わせて対応していることが影響していると思われる。受診控えにより重症化してから受診することによる反動を懸念しており、健診の受診、病気の早期発見をしていただくことに注力した広報をしている。

(2) 令和3年度石川支部事業実施結果について

資料2：令和3年度石川支部事業実施結果について

【学識経験者代表】

ジェネリック医薬品の製薬会社による不祥事が続いたが、そのマイナスイメージの影響はあったか。

【事務局】

石川支部の使用割合は80.2%で目標を達成したが、不祥事によるマイナスイメージのほか供給不足の影響があり、解消には一定程度の時間を要すると思われる。今後も安全性と供給の状況を注視しつつ取組みを進めていく。

【事業主代表】

仕事柄ジェネリック医薬品関係を取り扱うことがあるが、製薬会社では増産体制に応えるための人員確保ができず、ジレンマを抱えていると聞いている。そのことから、供給不足解消には時間を要すると思われる。

【学識経験者代表】

「多剤服用」において、どのような取り組みができるか。また、精神疾患や高齢者が比較

的多いと思うが、お薬手帳は有効か。

【事務局】

多剤服用の薬害リスクの周知と医療機関窓口への相談案内を内容とする通知事業を実施している。本来、お薬手帳がこの役割を担うが、お薬手帳を持っていない、又は薬局ごとにお薬手帳を持っているような方々がいる。この通知事業が、そういった方々の牽制という形にもなっている。

(3) インセンティブ制度の見直し結果について（報告事項）

資料3：インセンティブ制度の見直しについて（報告）

【学識経験者代表】

石川支部はもともと健診実施率が高かったため、上昇率に重きを置くような今回の改正は不利となるのではないか。そもそも医療費の見込みが大きく下回った場合の地域差によっては、インセンティブにより得られる減算はほとんど意味がなくなると思われる。

【事務局】

今回の改正はこれまで不利であった大規模支部に配慮したもので石川支部にとっては厳しい面はあるが、インセンティブの獲得に向けて指標 5 項目の実施率等向上に引き続き取り組んでいく。

傍聴者 : なし

次回開催 : 令和4年10月を予定